

「愛なき時代に生まれてきたんじゃない。」

マタイによる福音書9章35～38節

聖学院小学校・幼稚園チャプレン/聖学院大学非常勤講師 濱田 辰雄

今日読んでいただいた聖書の中に「群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた」という記述がありました。私たちはこれと同じ情景を昨年3月以来見続けてきています。そう、東日本大震災によって受けた大震災被災地域の情景であります。しかしこの悲しみの情景は震災被災地域だけにとどまらず、いじめによって自殺した子どもたちのご家族の情景でもあり、毎年3万人を越える自殺者の方々の心の情景でもあります。孤独死や無縁死に至る人々の状況もまた同様であります。本当に現在の日本は「愛なき時代」と言いたくなるような状況がそこかしこにあります。「鋭敏な魂」を持つ人々はこの時代の「飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れている群衆」を見て心痛めずにはおれないのであります。

今日の奨励題はこのような状況を念頭においてつけたものですが、実はある歌の歌詞です。昨年の秋だったでしょうか。「家政婦のミタ」というテレビドラマが大変な話題になりました。視聴率40%強という現代では考えられない数字をあげたテレビドラマです。このドラマは家族崩壊をテーマにしたドラマで、母親が夫の浮気で自殺した家庭に、生きる希望・意欲を全く失っているミタという女性が家政婦として雇われるという設定で展開されていきます。このドラマはまさしく「愛のない」状況で次から次へとひどい事件が起きていきます。まあ最後は多少希望を提示して終わるのですが。

このドラマの主題歌が『やさしくなりたい』というのですが、この中に「愛なき時代に生まれたわけじゃない」という歌詞があるのです。そして「強くなりたい、やさしくなりたい」とつづくのです。又「君と生きたい、君を笑わせたい」という歌詞もあります。

今日のマタイ福音書にある主イエスの思いはまさしくこれだと思えます。イエス・キリストは「飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れている群衆」と御自分を同一化しておられます。そして何とかしてこの群衆を再び立ち上がらせたいと願われ、君と生きたい、君を笑わせたいと思って、そのために自分と一緒に働いてくれる人を求めておられるのです。

この4月から聖学院大学でも新しい形でボランティアセンターが立ちあげられました。とても素晴らしいことです。確かに時代のそこかしこに崩壊状態、破綻状況が起きています。多くの人が「飼う者のない羊のように弱り果てて倒れて」います。しかし決して愛なき時代に生まれたわけじゃない。イエス・キリストはこの状態を深くあわれまれて何とかしようとしておられます。わたしたちもどんなことでもいい、ほんの少しでもいい。キリストの思いに応えるかたちで奉仕していきたいと思うのです。ボランティアセンターだけでなく、聖学院大学にいる私たちすべてがキリストの愛によって「強くなり、やさしくなって」この世へ出て行きたいと思えます。

2012年7月5日 聖学院大学 全学礼拝